



株式会社 ソナーレ

所在地:
東京都豊島区

URL:
<http://www.sonare.co.jp/>

主な事業:
楽器が弾けるマンションの専任運営
管理 / 音大生・音大卒業生へのビ
フォアサービスとアフターサービス
の提供 / 音楽家を派遣するコンサ
ート企画・運営 / ラジオ番組「MUSE
LIFE」企画・放送(毎週水曜 11:00~
11:55 FM77.7MHz)

株式会社 ソナーレ

FileMakerサーバをAWSへ引っ越すことで、 外出先でもアクセスできる環境を整備し、 業務効率をアップ!

■ 導入前の課題

- 社内のFileMakerサーバに、社外からアクセスできない構成であったが、iPadの活用が進み、社外からiPadでFileMakerサーバを見たいという要望が高まってきた。
- 既存のベンダーにAWS構築ノウハウがなかった。
より柔軟にキャパシティを確保できる仕組みが必要であった。



株式会社ソナーレ(旧社名:ソナーレ音大学生倶楽部)は1999年創業の楽器可物件専門の不動産会社である。現在は東京・埼玉・神奈川を中心に2,000室を超える室内で演奏できる賃貸物件を、音大生や演奏家のための「楽器演奏可能マンション」として数多く企画・開発・専任管理している。また、不動産の賃貸だけでなく音大生・音大卒業生へのビフォアサービスとアフターサービスの提供や、音楽家を派遣するコンサート企画・運営など幅広い活動も高い評価を得ている企業である。

同社ではAWSを導入する2年ほど前から、社内システムとしてSalesforceを利用していた。Salesforceの利用に続きiPadを導入したことで、社外でもSalesforceの情報がみられるようになり、外出の多い営業メンバーからは大変好評であった。しかしSalesforceが便利になると、多くのマンションの物件情報を格納しているFileMakerサーバの情報も、同時に社外で見ることができればもっと効率が上がるだろうという要望が高まってきた。

FileMakerサーバをAWSへ移行することで 社外からのアクセシビリティを向上

この要望を叶えるため、早田氏は社内のFileMakerサーバに社外からアクセスできるシステム改修の検討を進めた。AWSを選んだきっかけは、既存のFileMakerサーバの保守を担当していたベンダーの薦めだった。しかし、そのベンダーにはAWS上でのシステム構築経験がなかったため、早田氏は実績のある他のベンダーを探した。テラスカイを選定したのは、早田氏が以前Salesforce導入のプロジェクトを共に実施した経緯による。

使用サービス

EC2
VPC

早田氏は、「見積りや開発の手順がしっかりしていて、段階を踏んで先々のことも視野に入れた提案をしてくれた。スピーディーな対応でしっかりしていた。信頼感がある。」とテラスカイを評価し、AWSにおいてもプロジェクトを支援する運びとなった。

リバースプロキシサーバを フロントに置くことにより アクセスを制限し安全性を向上

当初、ソナーレの社内環境からAWS環境へのアクセスはVPNを整備し、社外で利用するiPadからのアクセスはインターネットから直接アクセスするような構成を検討していた。しかしiPadで社外からアクセスするのはセキュリティリスクがあると考えたテラスカイは、システムの構成として「セキュリティの仕組みを先に作った方が安全。FileMakerサーバの前にリバースプロキシサーバを置くことにより、FileMakerサーバに対するアクセスをリバースプロキシサーバのみに制限できるので、Wi-Fiを介したFileMaker GO (FileMaker接続クライアント)からのアクセス時にも安全性が向上する。」と提案し、この構成での実装を行うこととなった。

業務効率アップとリスク減少を実感

社外でもFileMakerサーバの情報をiPadで見ることができるようになり、ソナーレでは業務効率が格段に上がったという。システム管理者である早田氏も、AWSを直接利用している感覚はあまりなく、管理者としても

使いやすさを実感している。加えて、AWSの導入後はほとんどトラブルなく安定して稼働していることに、非常に安心感を得ているという。自社でFileMakerサーバを管理していたときは、トラブルが多く不具合の対応が後手にまわってしまうことが多かった。年中無休で10時から18時まで営業している会社にとって、システムダウンにより業務がストップすることは致命的であった。だが、AWSを導入してからはトラブルもなく、業務がストップするリスクは大幅に低減されたという。AWSは安定していてネットワークの遅延もほぼない。故障の心配もなくトラブルも今のところないので、安心して利用できている。費用面では、オンプレミス環境に比べ極端に安いわけではないが、安心感や信頼感に払う費用としては満足しており、データ容量や稼働時間によって利用料が決まるので、繁忙期以外はCloud Automator (AWS運用自動化ツール)を利用してコストの削減もできている。また、AWSの良さはリースではなくレンタルなので、ハードを買って古くなったりメンテナンスしたりする必要がないところもメリットのひとつだ。ビジネスのスピードに対応しやすいという点が一番大きい、と早田氏はAWS利用のメリットについて語った。

運用を見直し、 さらなる業務効率の改善へ

今後は運用自体を見直すべく、クラウドで動作するマネージド型仮想デスクトップコンピューティングサービスの活用を同社では検討している。AWSであれば、Amazon Workspacesを使用することで、様々なデバイスを一元管理し業務効率を高められる。それに加え、BCP対策を強化してモバイルを活用し、場所に依存することなく利用できる環境を整備していきたいと考えている。

システム概要図

